

# 「人類はなぜ宇宙へ行くのか」 シンポジウムの背景と趣旨

磯部洋明

シンポジウム実行委員

京都大学宇宙総合学研究ユニット

# 京都大学宇宙総合学研究ユニットとは

- 「宇宙」に関係した研究者が集まってできた新しい学内組織。2008年発足。
- 理学、工学融合による宇宙科学の推進
- 生命、環境、医学、人文社会科学をも含めた、新しい学問領域の開拓

# なぜ宇宙ユニットと京都精華大学？

- 京都精華大学は芸術、デザイン、マンガ、人文の4学部をもつ「表現の総合大学」
- 宇宙科学とマンガ、アートのコラボによる「宇宙とアート」プロジェクトを2009年に開始
- 本シンポジウムはその一環として企画

# 問題意識

- 人類の宇宙進出は拡大を続けている
- 人はなぜ宇宙へ行くのか？
  - 必要に迫られて？
  - フロンティアを求めて？
- 宇宙へ行くことは人と社会をどう変えるか？
- 遠未来に人類が生き延びるには？

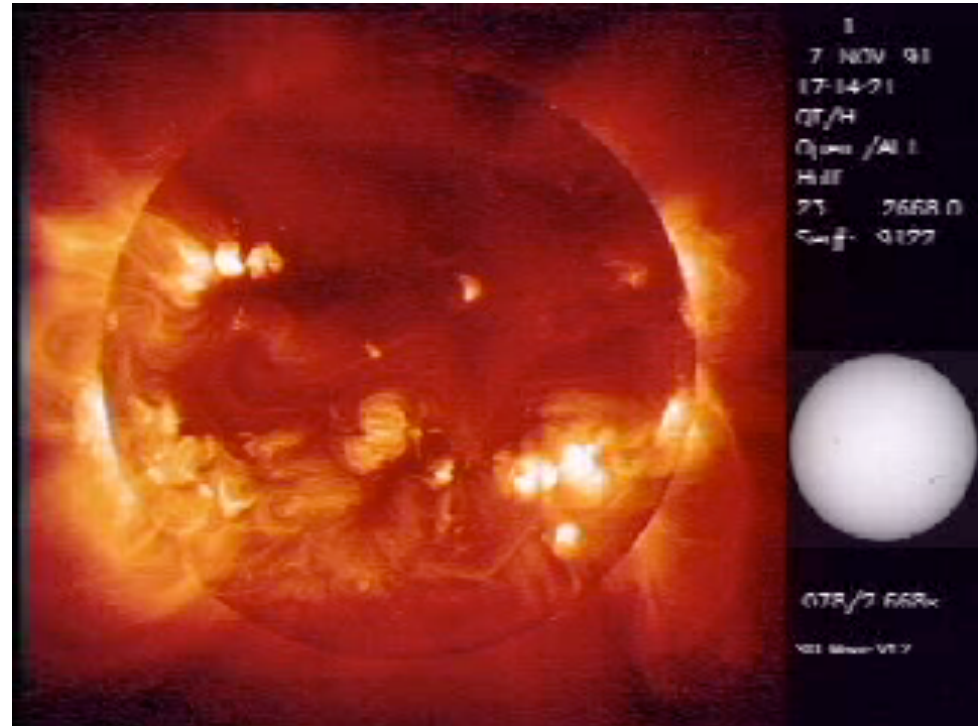
# 宇宙時代を人類が生き延びるためには

- 宇宙と地球と生命の将来を理解、予測
  - 天文学、地球科学、生命科学...
- 必要とされる技術
  - 宇宙航空工学、医学、農学...
- あるべき社会のあり方
  - 社会科学、法学、経済学...
- 個人に何が起きるのか
  - 心理学、宗教、芸術...

総合的な学問の対象  
...宇宙生存学

# 太陽物理学者としての宇宙生存学的興味

- 太陽はなぜこんなにも爆発だらけなのか
- この先太陽はどうなるのか
- 太陽活動が地球や人類に与える影響は
- 他の星や惑星はどうなっているのか



X線で見た太陽  
(ようこう衛星: JAXA/国立天文台)

# 一個人としての宇宙生存学的興味

- 地球環境が大変動して、生存競争が再び激しくなっても、戦争しない社会、身体的・社会的に弱い立場の人が幸せに生きられる社会はどうやって作るのか？
- 「持続可能で成長のない社会」で個人(特に若者)は幸せになれるのか？
- 人類はこの先生命としてどのように進化するのか？

## 本シンポで目指すもの

- 「宇宙生存学」の課題は何なのか洗い出す。
- 今後の継続的な「京都発・宇宙生存学」の出発点としたい。
- 50億点先を出発点に、いずれは現在、近未来の社会にフィードバックできる何かを。

# マンガ・アートと宇宙生存学

- 新しいモノの見方を先取りして見せる力
- 暴力、セックスといった人間社会の本質的要素を自在に表現する力
- 宇宙科学への人材供給におけるSFの貢献は大
- 「1億年後にどう生きるべきか」研究の成果は、学術論文ではなく、マンガやアートを通じて広い範囲の市民と共有してこそ意味がある
  - 「学」だけじゃない、「文化」を京都から発信したい

# 人類50億年すごろく



企画・原案：磯部洋明、どうのよしのぶ  
作画：どうのよしのぶ

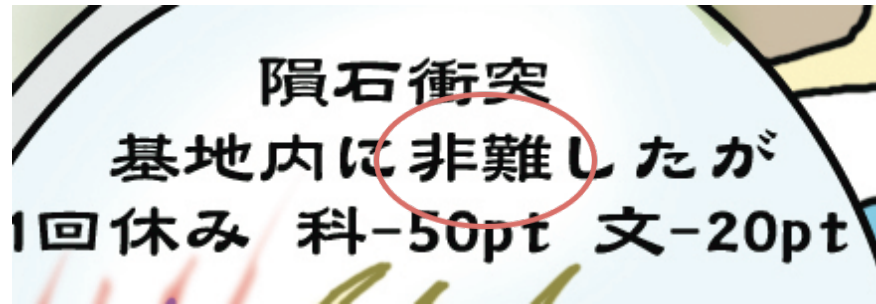
ルール: 人生ゲーム風に。

ただしお金の代わりに「科学技術」と「文明成熟度」をゲットしながら進む。



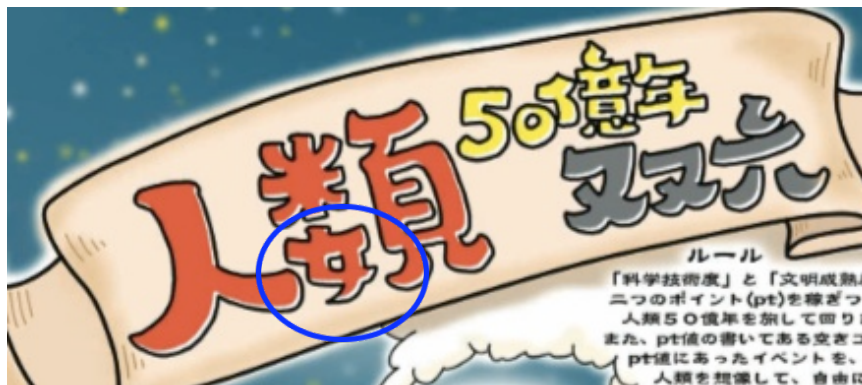
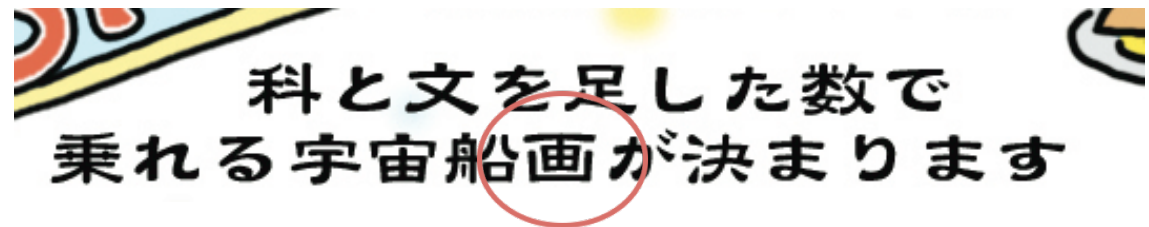
空いているコマには、未来を想像して自由にイベントを書き込んで下さい

# 指摘される前に...



「避難」です。

いりません。



類？

誤字脱字チェックをしたのは私です。申し訳ありませんでした。  
(ご指摘感謝: 京都大学八木様、国立天文台岡本様)

## 参加者の皆様より頂いたご意見、ご質問から

- そもそも太陽活動を観測、理解して人類に抗うすべはあるのでしょうか？
- 宇宙時代、重力からの解放により人間の思考は変化するのか
- 宇宙に人がいるということで地上の人間が受ける影響
- これまでの宇宙開発にSFが与えた影響
- 長いスパンの将来の投資として巨額な税金を使う意義
- すごろくが欲しい(小学生)
- ...

## 実行委員よりお願い

- 講演者の皆様は、時間を守って質疑の時間を残すようにして下さい
- とはいっても講演は延びるかもしれません。時間割は目安とお考え下さい
- シンポジウム＝討論会です。積極的なご質問、ご発言を歓迎します（質疑及び総合討論の時間）
- 講演中のフラッシュ撮影、携帯電話の使用はご遠慮下さい